

TAによる報告 I

李承赫（社会学研究科博士後期課程）

本稿は、2009年度冬学期の「教育と経済Ⅱ」に導入された講義＝演習連結型授業の運営結果を報告することを目的とする。

1 講義＝演習連結型授業の捉え方

本授業は、講義＝演習連結型授業として授業前半に講義型と授業後半に発表（演習）型の2本立てであり、TAの役割はグループ研究のサポートと発表準備段階における助言であった。特に、受講生に対して独自のテーマと問題設定を促し、発表においては、研究の成果を適切な根拠に基づき説明できるよう論理的思考力を促すことが求められた。

これを受けてTAの2人は、何をどれくらいアドバイスすればいいのかについて議論し、受講生の問題意識を最大限尊重しながら問題設定とグループ研究の実践を支援した。また、受講生がTAと気軽に相談できるような関係作りに努めることにした。そのなかで、TAは受講生に対して、指導する立場なのか、それとも支援する立場なのかについて議論した結果、受講生と気軽に相談できる関係作りを目指す以上、支援者の立場を取ることにした。

2 運営方針と目的

グループ発表は、A-Dまでそれぞれ2グループずつ合計8グループに分けられ、週に2つのグループが行うことになった。TAと受講生とのミーティングは、基本的に4回行うことにし、最初の2回は授業後教室で行い、第3回目と第4回目は大学教育研究開発センターのRA室で木曜日と火曜日のTA勤務時間帯に行われた。TAの勤務時間は火曜日の午後1時から3時と木曜日午後2時から6時に設けられ、受講生からの事前予約の上でTA2人が参加して相談することにした。

第1回目のミーティングは、グループメンバーの初顔合わせとグループ共通テーマの設定、役割分担について大まかに決めることを目的として発表2週間前に行われ、

教員と TA の 2 人が参加した。ミーティング後、参加メンバーに資料源として大学付属図書館の HERMES を中心に、CINII、JSTOR、東京都立図書館や都内図書館の横断検索のサイトに関する情報を提供する一方、実際に検索を実演して見せた。第 2 回目は、発表の 1 週間前に先生と TA2 人が参加し、準備状況、すなわちグループ発表のテーマと地域選定と課題設定、データの収集方法、グループ内の役割分担、そして発表を通じて主張したいことが絞られているかについて重点的に行われた。第 3 回目は、グループがそれまで準備した PPT や資料などを持参した上で、発表の構成、発表の流れ、分担内容の関連付け、主張の裏づけを中心に主に発表がある週の火曜日に行われ、第 4 回目は、発表前日または発表当日に全体の構成、体裁、結論の正確さと正しさのチェックを中心に行った。

第 3 回目と第 4 回目のミーティングの際には、発表がその週であるという直前の状況を考慮して、相談時間帯を柔軟に設け、TA2 人がそれに合わせる形で対処した。

3 支援過程

グループ A-1 「教育と機会の均等：初等教育のレベルにおいて」12月17日発表

- 1) 第 1 回ミーティング：12月8日火曜日午後1時、大教センター会議室
- 2) 第 2 回ミーティング：12月10日授業後午後5時、教室

12月13日日曜日の午後グループの代表者から「教育と機会均等」関連文献の推薦を求めるメールがあり、大学紀要掲載論文2本と単行本1冊を推薦した。

- 3) 第 3 回ミーティング：なし。

ミーティングの申し出がなかったため、12月16日水曜日の午前に発表準備状況をメールで尋ね、発表する PPT を発表当日正午まで TA にメールで送るかグループ内でプリントして授業に持参するように連絡した。メールの中で特にグループのテーマ、話の流れに注意するようにアドバイスし、TA が 12 月 16 日午後 5 時まで相談時間を設けていることを知らせた。

- 4) 第 4 回ミーティング：12月17日

朝メンバー 1 名から担当部分の PPT を教員宛てに送ってきたため、TA がその原稿を検討した。代表者が、午前 10 時頃グループ全体の発表原稿を持参し、PPT の検討を求めた。TA は、検討後、①全体の流れについての説明、②引用データの出典の記入、③参考文献の付け方の統一性、④用語の定義、について再検討するようにアドバイスした。

グループ A - 2 「国家戦略と教育支援：先進国家 4 カ国の国家戦略としての高等教育開発から見る日本の高等教育」 12 月 17 日発表

- 1) 第 1 回ミーティング：12 月 8 日火曜日午後 4 時大学教育研究開発センター会議室
- 2) 第 2 回ミーティング：12 月 10 日木曜日授業後
- 3) 第 3 回ミーティング：12 月 16 日水曜日昼

朝グループ代表者からメンバー 1 名分を除く 4 人分の発表原稿のドラフトをメールで送ってきた。TA は、①グループテーマを記した表紙と簡単な説明を含む導入部の必要性、②グループテーマと各自担当部分との関わりの明確化、③情報量のバランス、④考察結果の明確化、についてアドバイスするとともに焦点のブレと時間配分に注意するようにメールでアドバイスした。

昼ごろ相談にきた代表者に対して、午前中に検討した PPT を基にグループとして「国家戦略と教育支援」に関する結論として何を明らかにしたのかについて明確にまとめるようにアドバイスした。

夜メンバー 1 名から TA からのアドバイスを踏まえた上でのメンバー間の議論内容とともに役割分担のやり直しの結果について知らせるメールが届いた。

- 4) 第 4 回ミーティング：12 月 17 日発表

午前中代表者からメールで発表 PPT 原稿の完成版が届いた。また、発表順番の変更と発表の内容が「先進 4 カ国の比較から見る日本の高等教育支援戦略の問題点とその解決策」になるという旨を知らされた。

グループ B - 1 「アジアの国家戦略：ブレインゲイン戦争」 12 月 25 日発表

- 1) 第 1 回ミーティング：12 月 10 日授業後
- 2) 第 2 回ミーティング：12 月 17 日授業後
- 3) 第 3 回ミーティング：12 月 22 日大教センターの RA 室

メンバーは、課題と収集した資料・データが噛み合わず悩んでいることで相談に来た。TA は、グループの課題と手元にある資料・データを検討した上で、既存の課題に即した新しい資料・データ収集の時間がなければ、ある時点で見切りをつけてこれまでの資料・データに基づいて議論を展開するようにアドバイスした。

- 4) 第 4 回ミーティング：12 月 25 日

当日午前メンバーが、発表原稿を持参してきたため、TA がそれを検討した。前回の TA からのアドバイスを踏まえて、主張の裏づけとつながりに焦点を当てて修正された発表原稿だった。

グループB-2「ヨーロッパの今：北欧から見る教育の「平等」」12月25日発表

1) 第1回ミーティング：12月10日授業後

2) 第2回ミーティング：12月17日授業後

このグループは、すべてメンバー同士で発表準備ができると自信を見せたため、大まかな発表の流れを聞き、役割分担を確認した。

3) 第3回ミーティング：12月24日、大教センターRA室、学生1名、TA2名

学生は、当日午前発表原稿のドラフトを添付ファイルで送り、TAがそれを検討した。このグループは、授業内容の「効率性と公平性」について思考を深め、事例と関連させようとしたため、用語の定義と根拠に基づく範囲内で議論をまとめるようにアドバイスした。

4) 第4回ミーティング：12月25日

昼頃メールで発表原稿の完成版が届き、またメンバーが相談に来たためTAがそれを検討し、発表の流れと発表順番について確認した。

グループC-1「ラテンアメリカ：ラテンアメリカの初等教育」1月14日発表

1) 第1回ミーティング：12月17日授業後

2) 第2回ミーティング：12月25日授業後

3) 第3回ミーティング：1月12日2時

メンバーが発表原稿を持参してきた。TAは、発表の内容と流れを確認した上で、欠けている内容と結論の確認、目次、引用データの更新と出典、参考文献の表記、主要概念の確認、根拠データの提示が望ましい部分についてのアドバイスを行った。

4) 第4回ミーティング：1月14日午前

メンバーが発表原稿の最終版を持参してきた。TAは、前回アドバイスした内容を中心に確認した。また、鮮明度が低い写真が引用されていた点を指摘した上で、主要概念を再度確認した。一部のメンバーが担当内容の一部の修正をメールで要望したため、修正・確認した。

グループC-2「アフリカ：アフリカの初等教育を質・量の側面から考える」1月14日発表

1) 第1回ミーティング：12月17日授業後

2) 第2回ミーティング：12月25日授業後

授業後メンバー1人が、RA室へ相談来た。グループが想定している 이슈と国が複数のため、そのまとめの方向性に関する相談だった。TAは、論拠の大切さや引用とグループ意見のバランスなどに注意しながら 이슈を軸にアフリカ全体をまとめるよう提案した。

2010年1月4日メンバーから3つの国に焦点をあてて、下調べを済まし、発表原稿を作成中であるとメールで知らされた。TAは、3つの国に焦点を当てる理由を明確にする必要性を指摘するとともに、1月7日以降のTA相談時間を知らせた。

1月6日メンバーが、メールで発表の流れの変更と発表原稿のドラフトを送った。TAは、原稿を検討し、検討結果と図や表の出典の明記を再確認するようにメールで連絡した。

1月8日午後メンバーから資料補充のための参考文献の推薦を求めるメールが届き、TAは、東京都公立図書館横断検索を使用して得られた情報、特にグループが探している文献の所在についての情報をメールで知らせた。

3) 第3回ミーティング：2010年1月12日午後1時15分

午前メンバーから、発表原稿が送られてきて相談を求められた。TAからのアドバイスの内容は、発表の流れを示す導入部の追加、冒頭での発表の流れについての説明、引用の確かな出典の提示、主要指標の確認であった。

4) 第4回ミーティング：1月14日午前

午前中メンバーから最終原稿がメールで届いたため、メンバーと最終検討を行った。

グループD-1「文化と国家：教育とジェンダー」1月21日発表

1) 第1回ミーティング：12月25日授業後

12月30日グループ代表者から既存のテーマである「文化と国家」から「ジェンダーに的を絞った教育機会の平等」への変更に向けて議論しているというメールがあった。教員が、機会均等より「ジェンダー」を前面に持っていくことをアドバイスした。

2) 第2回ミーティング：1月14日授業後

1月18日午後1時メンバーが、それまでできた発表内容の流れと役割分担について話し、個々人の事例がグループテーマに沿っているか相談した。

3) 第3回ミーティング：1月20日午後4時30分

1月19日夜代表者からグループの取りまとめに苦しんでいるという理由で、相談を希望したため、20日午後発表原稿のドラフトをもとに相談した。女性の就学率と社会進出の関係に着目し、女性の就学率が高いが社会進出が低い要因として女性の役割に対する社会・文化的な認識の違いを指摘している点に注目しながら担当内容間のつながりが弱いと思われるため、その点に注意するようにアドバイスし、参考文献関連サイトを教えた。

1月20日夜代表者から21日午前中相談に来るというメールがあった。

4) 第4回ミーティング：1月21日午前10時

午前メンバーが発表原稿を持参して相談に来た。TAは原稿を検討した上で、口頭説明が必要な部分について指摘し、メンバーの考えを聞いた。ドラフトの一部にOpenOfficeで作成されたものがあり、TAはPowerPoint形式に変換し、プリントした。

グループD-2「高等教育に焦点をあてて：高等教育の問題点」1月21日発表

1) 第1回ミーティング：12月25日授業後

1月7日メンバーが、ミーティング準備中他のメンバー1名との連絡が取れないと教員にメールで連絡した。

2) 第2回ミーティング：1月14日授業後

3) 第3回ミーティング：1月19日午後12時30分

メンバーが、発表原稿のドラフトを持ってきたため、内容と流れ、担当者を確認した上で、グループが提示したまとめの方向性とこれからの変更点について説明を聞き、冒頭に論点の提示と発表の流れを説明する必要があるとアドバイスした。また、欠けている部分についての確認、文献検索の方法、メンバー全員で完成原稿とまとめを確認するようアドバイスした。

4) 第4回ミーティング：1月21日午前10時

代表者が発表原稿を持参してきたため、TAは、前回のアドバイスと変更点を中心に内容を確認した。

4 ミーティングその他を通じたサポート実践で見られた問題点・課題

今回の支援課程で見られた問題点は、発表準備の段階と発表本番の段階に分けて考察することが出来る。まず、発表準備段階では、特に第2回目のミーティングの段階では、発表日まで残り1週間のため発表の全体像が出来上がり、詳細を詰める作業のみが残っていると想定していたが、実際には課題設定に自信を持てず悩んでいるケースが見られた。その原因としては、グループメンバー同士がこの授業を通じて初めて知り合った場合が多く、また、グループ学習を行った経験がない者も多く、課題設定を決めるにあたり発表準備期間中のコミュニケーションが上手く取れなかったことが指摘できる。

発表の際用いるデータは、参考文献からそのままの引用が見られ、支援課程でデータのアップデートをアドバイスしたが反映されることが少なかった。その理由としては、元となるデータへのアクセス方法を知らないこととアップデートに手間がかかることがあげられる。データ・資料と主張の兼ね合いで考えると、一部の発表者は、計画していた主張内

容と実際手元にあるデータ・資料との乖離に戸惑いを感じ、そのまとめに悩んでいた。そこで、根拠が示された主張を優先するようにアドバイスした。学生たちは発表内容を裏付けるための根拠の示し方としてデータを用いる必要性を認識していたが、用いるデータの妥当性と正確性には注意を払っていなかった。

引用資料の提示法などの PPT の体裁にも問題が見られた。発表者が主に引用した文献の種類は、単行本、学術論本、ウェブからであり、それぞれの参考文献の表記に一貫性がない場合があった。受講者は 1、2 年生の占める割合が高く、参考文献、表のタイトルと出典の表記について指導を受けた経験が乏しいためと推測される。また、引用に関して目立っていたのは、再引用の仕方である。参考文献に掲載されている出典が示されたデータや資料などを再引用と記せず、用いる場合があった。今後、レポートや卒論などに備えるためにもより適切な体裁（スタイル）の習得が望まれる。

一方、発表本番では、発表方法とまとめ方で問題点が見られた。ピア評価で度々指摘されていた点でもあるが、発表時に聞き手の方を向かず、自分の手元やスライド画面に目が向いていることが多く、説得力ある主張ができていないのが惜しいと思われた。

グループ発表のまとめ方は、テーマと照らし合わせて一貫性を保つことが大事である。この点で特に目立っていたのは、用語統一の乱れである。その原因としては、グループメンバー同士で、発表計画の大まかな協議が行われたものの、各自の発表内容に集中したため、グループ発表全体としてのまとまりに欠けることであった。これに対しては、ドラフトを完成したらテーマ、課題、流れ、用語についてメンバー全員でもう一度確認するようにアドバイスした。グループ発表において、各自の役割のみならず、各自と全体との関係をどのように認識させれば良いかが課題と思えた。

また、発表原稿は、PPT 形式で引用資料やデータがスライドからはみ出すことがあり、それに対処できていないことに気付いた。その理由が、発表準備に使用する Office ソフトの基本的な操作の仕方は知っているものの、Windows に内蔵されている編集関連機能について知らなかったことだとわかった。発表者の中には、OpenOffice ユーザーがいたが、発表前に時間を設けて、編集関連ソフトの使い方を教えることも必要であると感じた。

感想

TA は、教員の授業目標を考慮した上で、グループ発表を成立させることを目標に支援に当たった。初回発表の 2 グループは、参考にするグループ発表がなく、テーマと課題の

設定や役割分担、そしてまとめに苦労したと思える。その翌週からの発表グループは、発表済みの他のグループの役割分担、内容、まとめ方を比較対象にした上で、内容のみならず構成や根拠提示などに力を入れる傾向が見られた。その一方、他のグループと比較し、より「いい発表」をしようとする意欲が強いあまり、具体的な課題設定などの発表準備が遅れて苦労しているグループもあった。

発表者の意欲が高いという点でいえば、当初計画していた課題に関連した十分な論拠を示すことができず、第3回目のミーティングの時点で悩んでいたグループに対して、手元にある資料に基づいて言えることに絞って発表するようにアドバイスしたことがあった。これに対して現状ではそうせざるを得ないと納得しながらも、「でも、本当に言いたいのはこれじゃないですよ！」と不満そうな学生の表情が印象に残る。彼ら・彼女らの思いを反映させようにもデータが不足で、そのことを彼ら・彼女らも納得したのだが、TAはこのような学生の思いをどのように汲み上げればよいか、考えざるをえなかった。

李承赫（い・すんひょく）

社会学研究科博士後期課程3年

大学教育研究開発センター リサーチ・アシスタント

総合社会科学専攻

専門分野：教育社会学、多文化教育